

提 言 書

狩野川は、天城山系を源とする豊富な水量と、伊豆半島の織りなす豊かな自然環境や風光明媚な景観などにより、多くの人々の憩いと安らぎの場となっています。一方、ひとたびまとまった雨が降ると様相は一変し、流域住民の生活を度々脅かしております。

昭和33年に発生した狩野川台風は、死者・行方不明者853名、家屋の全半壊・流出・浸水は6,775戸という、流域に甚大な被害をもたらし、我が国有数の大災害となりました。

こうした中、昭和40年に狩野川放水路が完成し、来年で60年を迎えるところですが、狩野川放水路や河川整備の効果により、これまでに、尊い人命が失われるような被害は発生しておりません。しかしながら、近年、気候変動に伴い激甚化する水害が全国的に頻発する中、この狩野川流域においても、平成16年の台風22号や平成23年の台風15号、令和元年東日本台風、令和3年の梅雨前線、今年6月の大雨等により、内水被害などが発生しています。

これらを踏まえ、令和5年8月には、中部地方整備局管内の13水系のうち、はじめに狩野川水系の河川整備基本方針が見直されました。これにより大仁基準地点の流量が $4,000\text{m}^3/\text{s}$ から $4,600\text{m}^3/\text{s}$ に変更され、また、狩野川放水路の分派量も $2,000\text{m}^3/\text{s}$ から $3,400\text{m}^3/\text{s}$ に見直されました。

については、狩野川流域市町、関係団体、地域住民が一丸となって減災、防災の取り組みを積極的に推進し、豪雨に強い河川をつくり、地域の安全・安心を確保するため、以下のことを提言します。

狩野川水系河川整備基本方針にもとづく、新たな狩野川水系河川整備計画を早期に策定すること。

狩野川水系河川整備計画を基に、各支川についても河川管理者と連携し、広域的な整備計画を策定すること。

新たな河川整備計画の策定には、狩野川放水路の改築を位置づけ、早期に事業に着手すること。

また、現在実施中の河川整備計画のメニューについても、着実に実施をすること。

我々、狩野川流域に暮らす住民は、狩野川の恩恵を享受するとともに、治水事業に関わる関係者の主体的な取り組みにより、流域治水を推進する社会を目指します。

そのためには、上流域での治山・砂防事業、流域内の河川改修、田んぼダム、校庭貯留、防災教育などハード、ソフト一体となった、あらゆる施策に取り組んで参ります。

令和6年7月18日

狩野川改修促進期成同盟会

沼津市長、三島市長、伊豆市長、伊豆の国市長、函南町長、清水町長、長泉町長